
14. 都市型エコミュージアムの実現めざした研究・実践活動

津山・城西まるごと博物館研究会
(岡山県津山市)

I. 活動の背景と目的

津山市の中心市街地は城下町として発展し、歴史的町並みを有し、地域コミュニティや、手仕事などの暮らしが息づいているまちです。

しかし、昭和30年ごろからのモーターゼーションの中で、日本の多くの中小都市にみられる中心市街地の空洞化が津山市でも生じています。中心部では多くの地区で高齢化率30%を超えています。

この津山市の中心部の西に位置する城西地区は明治、大正期に津山で一番賑わった地区です。姫路から出雲を結ぶ出雲街道の沿線には昔ながらの町家が連なり、その西側には寺町があり、現在も15のお寺が独特の空間を形成しています。加えて、地区内には明治、大正期に建てられた銀行、病院などの近代建築の建物も点在し、歴史が重層した町並みを形成しています。また、提灯、畳、仏具など昔ながらの手仕事を中心とした生業も息づいています。

数年前より、市民グループ「津山まちづくり市民会議」が中心となり、活性化の研究に取り組み、「暮らしが活きるまちなみ博物館」構想として取りまとめ、平成8年9月には、この構想の実践として、地元町内会と合同で、「津山・城西まるごと博物館フェア」を開催したところです。

その後、平成8年11月に地元の有志と市民会議のメンバーが集まり、年1回のイベントだけではなく、地域全体を1つの博物館として常時紹介する都市型のエコミュージアム「津山・城西まるごと博物館」の実現に向けた取り組みをしようと「津山・城西まるごと博物館研究会」を結成し、地区の生業の調査、取りまとめ、情報発信などの活動を行ってきました。研究会では地区にある作州地方の工芸品を展示し、研修室も備えている作州民芸館をコアミュージアムに、地区の町並みやお寺、手仕事を生業とされているお店をサテライトミュージアムに、地区を東西に貫く出雲街道や路地をディスカバリートレイルと位置づけました。

II. 活動の内容

津山・城西まるごと博物館研究会では、平成9年度の活動として

- ①地域の手仕事、伝統産業の調査、記録・情報発信
- ②ミニ博物館の開設援助(エコミュージアムのサテライトミュージアムと位置づけています。)とネットワーク
- ③コアミュージアムの充実

の3つを活動の柱として位置づけました。

まず、第1の柱、地域の手仕事、伝統産業の調査、記録・情報発信の活動ですが、地域の手仕事、伝統産業の調査、記録活動を4月から5月にかけて実施しました。地区内にある提灯、木工、お菓子、畳、25のお店について仕事の内容、行程、昔の仕事の様子、後

継者問題などの聞き取り調査を実施しました。4月6日に4つのグループに分かれ、事前の了解もなく調査させていただいたのですが、どのお店も快く調査に協力していただきました。自分の仕事に対して誇りとこだわりを持たれており、精いっぱい頑張っておられるのが印象的でした。ただ、多くのお店で自分の代で終わりという後継者がいない問題がありました。この調査結果はカルテとして取りまとめました。

この調査の様子や調査結果が津山市の広報「広報つやま」8月号で特集され、紹介されました。

研究会ではこの調査結果を基に、5月30日インターネットのホームページ「津山・城西まると博物館」を開設しました。インターネットを活用したのは、手軽に全国や世界に向けて発信できることが大きな要因ですが、インターネット上で展開されているバーチャルショップを参考にホームページ上にまず、仮想博物館として開設し、地元の皆さんにも紹介しながら「津山・城西まると博物館構想」の理解、ネットワークを図っていこうと考えたところです。5月30日はささやかに除幕式を開催しました。以後、随時内容を更新しています。

次に第2の柱、ミニ博物館の開設援助とネットワークの活動ですが、事業計画では6月ごろからミニ博物館の登録、開設支援を行い、統一看板、マップなどで紹介する予定でしたが、具体的な運動の中で地区の方々に「津山・城西まると博物館構想」を理解していただくことから始めようと9月20日、21日に昨年に引き続いて開催された津山・城西まると博物館フェアで、研究会として手仕事スタンプラリーとお寺めぐりスタンプラリーの企画を担当しました。両スタンプラリー併せて、家族連れなど約千人の参加で地区の手仕事やお寺の由来、歴史を学ぶ事ができました。

お寺めぐりスタンプラリーについては事前にそれぞれのお寺の由来を書いた紹介文を用意し、当日は地元の老人クラブの方々がそれぞれのお寺で、スタンプを押す役割を担ってくれるなど地区を巻き込んだ取り組みとなりました。手仕事スタンプラリーは9つのお店が協力。その内、3つのお店で実演や参加者が体験できるように配慮していただきました。

また、平成10年1月には地元の方々と大阪市平野区の「町はまると博物館」を視察見学し、地元で活動されている方のお話を伺ったり、実際にミニ博物館を開設されているお店やお寺を見学し、ミニ博物館の具体的なイメージをつかんだりしました。

現在、地区を紹介するマップづくりを行っており、今後、のぼり旗やマップで紹介していこうと計画しているところです。

次に3番目の柱、コアミュージアムの充実の活動です。

作州民芸館は大正時代に建てられた銀行の建物です。平成5年に津山市が買い取り、1階は地元作州地方の工芸品の展示として2階は研修施設として一般公開されています。しかし、1階の展示物はガラスケースに入れたままの固定展示で、繰り返し見学者が訪れる



お寺めぐりスタンプラリー

という状況ではなく、また、2階の研修室も駐車場や場所がわかりにくいなどの問題からほとんど使用されていない状況です。研究会では、この作州民芸館を「津山・城西まると博物館」のコアミュージアムと位置づけ、有効利用を図るため、展示会などを開催してきました。

9月の「博物館フェア」では2階研修室を使って、アメリカのサンタフェ市（津山では数年前よりサンタフェと交流を続けています。）の工芸展示や織物の実演を開催しました。また、裏の駐車場ではコンサートや木工、さおり織りのワークショップを開催し、多くの来館者で賑わいました。また、11月の26日～30日には「城西手仕事展」を開催し、地区の生業調査の資料を基にした、写真展、イラスト展を開催しました。期間中の11月29日には地区で仏具店を営まれている山本正夫さんを講師に手仕事の実演、体験講座を開催しました。

また、3月17日～22日にかけて地元の作家4人による展示会「四季展」を研究会と共催で開催しました。

今後、手仕事の体験講座や展示会を随時企画していきたいと予定しています。



木工、さおり織りのワークショップ

Ⅲ. 活動の効果及び今後の課題

この1年間、地道ですが、地域を1つの博物館として町並み、暮らしを紹介する活動を続けてきました。イベントや行事などを地元新聞が取り上げてくれ、地区の中にもこの取り組みについて理解を示していただける方も増えています。また、インターネットなどを使っての情報発信により、全国的にも私たちの活動を紹介することができ、問い合わせなども相次いでいます。昨年11月には、国立科学博物館のミュージアムマネジメント研修に講師として呼ばれ、事例報告したり、今年1月にはNHK岡山放送局が取材にみえ、活動が紹介されるなど、私たちの想像以上の反響でした。

しかし、まだまだ1年少しの取り組みで、地元を十分巻き込んだ取り組みにはなっていないのも事実です。

今年度も引き続いて（財）ハウジングアンドコミュニティ財団の助成がいただけることが決まりました。今年度は昨年できなかったミニ博物館の登録や学芸員の登録活動を行うなど地元でのネットワークを強める事やミュージアムショップを現地とインターネット上に開設し、自主的な財源も得ながら活動を行っていく事などを計画しています。インターネット上と秋のイベントの時に体験できるエコミュージアム「津山・城西まると博物館」をどれだけ常設することができるかが今年度の課題です。